



手指動作の発達について

人間の手指の動きは、基本的には次の4つに分けられます。

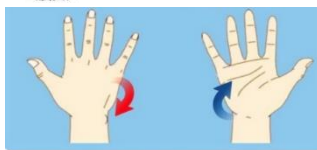
背屈（掌屈）



内転（外転）



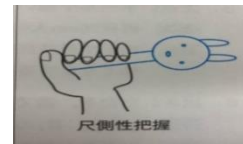
回内（回外）



対立（対向）



手の巧緻性は成長につれて尺側（しゃくそく）性把握（熊手型）（親指が関わらないつかみ）から、橈側（とうそく）性把握（親指、人差し指、手のひらの一部を使って、物を操作）へと発達します。



その後、三指対応（親指、人差し指、中指）によるつまみを経て、二指（親指、人差し指）による指腹把握（生後10～12か月レベル）、指先を用いたピンチ（対向運動）（生後13～18か月レベル）へと進み、操作性が向上していきます。

指先を用いたピンチの段階である「つまみと取り出し」を育てるプログラムとして、「障がいの重い児（者）が求めるムーブメントプログラム」では、次の活動を推奨していますので参考にしてください。

- ・箱から木製の積木等を取り出す
- ・ビー玉をつまんで皿に入れる
- ・豆をつまんで皿に入れる
- ・マジックテープの遊具をはいだりつけたりする

参考文献

「障がいの重い児（者）が求めるムーブメントプログラム - MEPA-ⅡRの実施と活用の手引き -」
小林芳文編・著 文教資料

拘縮が強い、麻痺があるなどの理由で、ピンチ機能の向上が難しい実態の児童生徒については、補助具の工夫や代替手段を考える必要があります。

具体例 ラベルのはく離紙をはがす工夫

ラベルライター（商品名：テプラ、ネームランド等）で印刷したラベルですが、指先、指腹、爪を上手に使ったり、両手を協応させたりして、はく離紙をはがしますが、ラベルが細くて対応が難しい児童生徒には、セロハンテープをはく離紙に付けることで、支える面積が増えたり、ラベルの端やラベルとはく離紙の境目が確認しやすくなり、はがす動作が幾分簡単になります。効率化テクニックとして児童生徒自身で応用できる事例です。



（文責：自立活動部主任 佐藤篤）

令和3年度 かがやきの丘ミニ学校展、きらりミニ学校展の開催について（10、11月）

学校紹介パネル、児童生徒の作品や作業学習製品等を展示します

きらりミニ学校展⑥

10月14日（木）～10月26日（火）【南部市民センターなんびあ】

きらりミニ学校展⑦

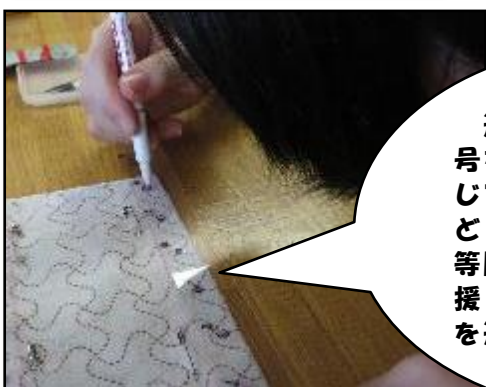
11月11日（木）～12月1日（水）【秋田銀行御所野ニュータウン支店】

【高等部 作業学習（縫製班）の実践紹介】



縫製班では、マスク、きんちゃく袋、ラベンダーを入れた香り袋などを製作しています。しつけ縫い・ミシン縫い・ひも通し・袋詰めなど複数の工程があり、一人一人が自分の持ち味を生かして得意な工程を担当しています。今回は、生徒の手の動きや見え方に応じて、よりスムーズに作業に取り組めるよう工夫した補助具を紹介します。

〈補助具① しつけ縫いの印づけ〉

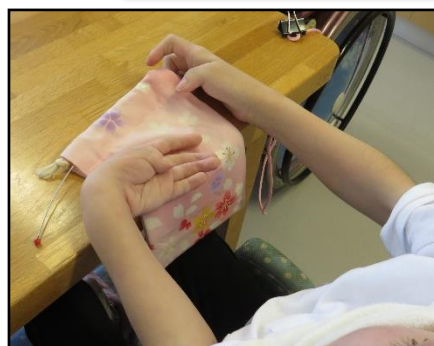


ひもを通すための補助具です。しなりがある、長いワイヤーを使っています。袋の口にひもを通すときに入れやすく、自分でゆっくりと引っ張りながら通すことができます。

〈補助具② ひも通し〉



透明の板に穴を開け、番号をつけています。穴に応じて印をつけると、ちょうどしつけ縫いがしやすい等間隔の印がつけられ、支援がなくても自分で作業を進めることができます。



〈文責：工藤 裕子〉

教育専門監のコーナー

【心を育てる手、指あそび】

- ★手の動きの基礎を育てるには、手のひらを育てる。
- ★力強く握る、手のひらで体を支える経験が手のひらを育てる。

【手と指と脳の関係】

○「第2の脳」とよばれ神経が集中している手。手・指を使ったあそびは、脳の働きを活性化します。

【目と手の協応運動】

○目で見たとおりに動かす一連の動きは、成長途中の子どもの視覚と指の動きを統合させ、手先の巧緻性を高めます。

【手の発達と学び】

○手のひらで握るから、つかむ・のぼす・ひねる・つまむ・通すという、手や指の動きの育ちとともに、距離感、物のしくみ、将来の生活に必要な基本動作を身に付けていきます。

《のり、シール、スタンプ、はさみを使った遊びや工作で培われた目と手の協応や集中力、指先の調整力は、複数の複雑な工程を理解し、活動を完結させようとする作業学習における「集中力」「意志力」「持久力」へと繋がり、キャリア発達を支えます。》

参考：「あそびから未来をかえるボールネンド」（公式WEBサイ

《セルフモニタリングとコントロール》

様々な道具の操作と縫製の技術により、各自が考え、判断し、進める、高等部作業学習の実践。大切にしているのは“先を見通し、周囲と協調しながら進んで役割を担う姿”。周囲への信頼と操作の自信が、思考を助け、一つ一つの工程に求められる技術の獲得により、自己有用感を感じながら責任を果たしていきます。各自が役割を遂行する中で課題と向き合い、仕上がりの善し悪しを判断したり、効率的に作業を進めたり、不具合に対処したりする様々な工夫を考え作業を進めます。生徒を支えているのは、“どんな仕事にもその仕事を待っている相手がいる”という相手意識と目的意識。何を、どのように、どうつなげていくのか、目指す自立と社会参加に向けて自らの可能性を見いだしていきます。

〈文責：二階堂 悟〉



◇教育相談・見学の希望があれば、いつでも御連絡ください。

教頭 高橋 省子 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>